

## 夏休み前の全校集会 あいさつ

皆さんこんにちは。

今年度もコロナ禍で始まった新学期でした。緊急事態宣言やまん延防止措置のために、体育祭の延期など授業や部活動に制限がかかった学校生活が続いています。その中で、緊急事態宣言が解除された2日後に実施した体育祭は、皆さんの蓄積したエネルギーが一気に爆発した素晴らしい1日になりました。閉会式の講評で、体育祭の本当の成功は今日ではなく、2週間後を無事迎えることができると話しました。皆さんの自覚と責任のある行動によって、体育祭が本当に成功したと改めてここに宣言します。次は、9月の文化祭です。昨年に続いて、コロナ禍での開催です。クラスで準備が進んでいると思いますが、コロナ禍だからこそできるアイデアを出し合って、体育祭を超える文化祭にしましょう。

1・2年生は明日から、3年生は29日から夏休みに入ります。睡眠や食事などに十分配慮し、規則正しい生活を夏休みに入ってからでも続けるよう心がけてください。

今日は「気づく力」について話をします。生徒会執行部の生徒やある部活の生徒、授業見学の際に話した生徒の中に、「あッ！この生徒は気づく力があるなあ。」と感ずることがあります。そんな力を泉陽生の皆さんに身に付けて欲しいと思い、今日話すことにしました。

「気づく力」というのは人生を生きる上で最も重要な能力の一つだと言えます。例えば、戦国時代のいくさなどでも「気づく力」というのは命を守るための術でした。現代でも「気づく力」を養うことは重要で、自分が成長するためには自分が無知であることに気づくことが不可欠です。どれだけ気づけるか、それこそ重要なカギになります。

「気づく力」を養うために大切なことを5つあげます。

1. 日常を切り取る。

ニュートンは林檎が木から落ちた日常を切り取ったからこそ、偉大な発見の道標になりました。当たり前な日常を自分なりに切り取って、自分なりに考えてみる、幅広い範囲で物を見るようにすることです。

2. 様々な角度から考える。

一歩踏み込んで、多面的に考えることです。様々な角度から考えて、気づいたことを自分に生かしていく。そんな発想が大切です。

3. 当事者意識をもつ。

例えば、文化祭は文化委員ややりたい子がやればいい。そんな認識を持っている人はいませんか。クラスの生徒全員が、当事者意識を持って活動し始めているクラスは、クラス企画やクラスTシャツなど生徒の自治がどんどん進んでいます。当事者意識を持っている範囲は気づく範囲と連動していて、それが気づく力や能力に直結しているということです。当事者意識を持つと、必然的に気づく力を鍛えることに繋がります。

#### 4. 本を読む。

今更と思うかもしれませんが、本を読むと言うことは自分の視野を広げる行為です。見えない世界を見えるようにしてくれるのが本を読むと言うことです。自分の視野が広がると、必然的に気づきの範囲も広がってきます。また、思考力も鍛えられるので鋭い問いが生まれやすくなります。

#### 5. 人間にしかできないことは何かを考える。

現在、AI や IoT が急速に進化し、発達しています。しかし、AI や IoT には「気づく」という概念はありません。与えられたアルゴリズムに基づいて淡々粛々と作動します。

以上が「気づく力」を養う方法です。どれをとっても、難しいものはありません。他人やライバルよりも早く気づけばより早く行動ができて、先手を打つことができます。受験や試合でもより早く気づくことで、有利に立つこともできます。先生や保護者からの助言やアドバイスをヒントにすることも、いいでしょう。自分で考え、判断し、自ら伸びていく。そのために、「気づく力」を少しずつ身につけていきましょう！

泉陽生ならできるはずです。